



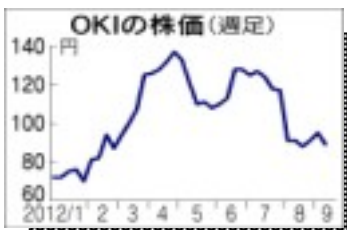
関連会社の不適切な会計で

損失308億円

経営の不祥事で、従業員にしわ寄せするな!

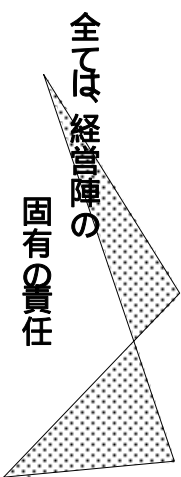
	訂正前	訂正後
売上高	4,281	4,234
経常利益	145	90
純利益	80	15
総資産	675	412
自己資本比率(%)	18	11

(注) 訂正後の自己資本比率は概算



OKIの連結業績に与える影響
(単位億円・2012年3月期)

今回の事件は、事業で損失を出したものとまったく質の違うものです。事業なら外部環境云々の言い訳もあるが、経営管理の不手



1,000人の人員削減、度重なる労働条件の切り下げなど従業員は多くの犠牲を払い、財務体質を改善してきました。ようやく会社再生のスタートラインに付いた途端の不祥事で、これまでの従業員の努力を無にするものです。



OKIは9月11日、スペインの子会社(OKI SYSTEM SIBERICA)で不適切な会計処理があった問題で、2012年4~6月期までの6年3ヶ月で累計308億円の損失が発生したと発表しました。

OKIの格付け2段階下げで BB- (マイナス) ダブルBは、信用力は当面問題ないが、将来環境が変化する場合、充分注意する要素がある。ダブルBのマイナスは、その下のランクです。(R&I)

あすなる

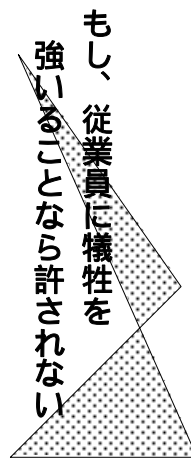
沖電気の職場を明るくする会

東京都港区三田3-2-20 TEL 03-3455-6006

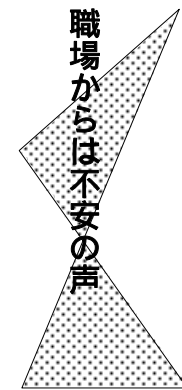
<http://oakhp02.chottu.net>

10月特別号

今回の不正会計事件は、全面的に経営陣の責任であり、それをもし従業員に、犠牲を強いることになるなら許されません。12年3月期決算で80億の純利益が出たとして、取締役の平均役員報酬は、前年比1,531万円増の2,771万円にしました。



職場からは「この損失で冬のボーナスは、決められていたものが支払われるのか」「また賃金カットとかやられたら困る」「株が下落して資金調達は心配なのか」など不安の声が上がっています。



際であり、弁解はできないものです。役席を含めた経営陣の固有の責任が問われる事件です。

再発防止のための抜本的な改革を！

目先の利益追求の経営体質

東京証券取引所の上場廃止の回避はできたが、外部調査委員会の調査内容からも、不正を生み出すOKIの経営体質が浮かび上がってきます。経営体質そのものを改革することが求められています。

「OKIとの関係で、短期的な予算達成を優先させたことが、不適切な会計処理を誘発した一因になったことは否定できない」としています。

実態を無視した親会社の目標押し付けと成果主義の害悪

「欧州の経済状態を無視した、販売計画を実現するため、過度の押し込み販売をしていた」「高い評価を維持するため、プリンタ事業が収縮する中でも無理して予算達成を図ろうと考えた」など、無理な目標の押し付けが指摘されました。

コンプライアンス（法令遵守）

経営への意識の欠如

「コンプライアンス経営の体

制を構築しているが、公益通報規定は海外の関係会社は適用対象外になっている。この不徹底が不正の発覚を遅らせた一因」と言われています。

「管理規定」の運用が不徹底

「OKIグループ「管理規定」を制定し、関連企業の経営実態を把握し、助言・指導を行うとしているが、運用が徹底されていなかったと言わざるを得ない」としています。

事なかれ主義の蔓延と

会社役員の隠蔽体質

「不適切な会計処理が疑われるようになったあと、関係者において実態を直視することにより問題が明瞭になることを避けようとする考えが働いた可能性が否定できない」「更に一部の役員のみで処理しようと考えたことが、問題解決に支障が生じた」等々……篠塚前社長からの経営体質から脱却できていないと言わざるを得ません。

早急に再発防止策の策定を

不正な会計問題の背景には、目先の利益を追求し、経済状況を無視した予算にもあります。中・長期を見通した経営戦略が求められます。

又、危機管理対応としても「臭いものには蓋」ではなく、問題が起きたら全体に明らかにして問題解決を図る姿勢が重要です。その上でコンプライアンス経営や企業の社会的責任を、単なるスローガンのように掲げるのではなく、魂の

入ったものにしていく事が求められています。



何よりも、経営トップ・役員を意識改革が求められています。